

●第45回地盤震動シンポジウム(2017)●

2016年熊本地震に学び、将来の強震動予測を考える

<主催> 日本建築学会構造委員会 振動運営委員会 地盤震動小委員会

昨年のシンポジウムでは2016年4月に発生した熊本地震に焦点をあてて、注目された地表地震断層と活断層、震源近傍における2回にわたる大振幅地震動、益城町の甚大な建物被害、地盤変状などについて多岐にわたる議論を行った。今年のシンポジウムでは、熊本地震より得られた知見を整理した上で、特別講演をはさみ、最新の地盤震動研究の事例紹介を行う。地盤震動研究は、1995年兵庫県南部地震を契機として近年目覚ましい発展を遂げたとされるが、その成果を将来の地震災害の軽減や設計用入力地震動の策定により一層役立たせるためにも、今回のシンポジウムでは熊本地震から得られた教訓と当該研究の到達点についての理解を深め、今後検討すべき課題について幅広い議論を期待したい。

日時：2017年11月24日（金）10:00～17:20

場所：建築会館ホール

内容（各講演の題目等は変更されることがあります）

司会：神野達夫（九州大学）・浅野公之（京都大学）

：永野正行（小委員会主査／東京理科大学）

1. 主旨説明 10:00～10:10

2. 2016年熊本地震で得られた知見(1) 10:10～11:25

- 2-1 熊本地震の複雑な地表地震断層と震源断層との関係 : 遠田晋次（東北大学）
- 2-2 断層近傍の強震動特性と地表地震断層近傍の建物被害調査 : 久田嘉章（工学院大学）
- 2-3 熊本平野で展開した臨時地震観測とその地震動特性 : 津野靖士（鉄道総合技術研究所）

司会：大野晋（東北大学）・関口徹（千葉大学）

3. 2016年熊本地震で得られた知見(2) 12:45～14:00

- 3-1 特性化震源モデルによる震源近傍地震動の再現と残された課題 : 野津厚（港湾空港技術研究所）
- 3-2 常時微動による熊本県益城町の地盤と建物被害 : 長郁夫（産業技術総合研究所）
- 3-3 益城町の表層地盤の非線形応答 : 後藤浩之（京都大学）

4. 特別講演 14:00～14:50

- 4-1 わたしの地盤震動研究を振り返る : 時松孝次（東京工業大学）

司会：高井伸雄（北海道大学）・三浦弘之（広島大学）

5. 最新の地盤震動研究 15:15～16:30

- 5-1 中央構造線断層帯（金剛山地東縁 - 和泉山脈南縁）周辺域の地下構造モデルの高度化と強震動予測 : 上林宏敏（京都大学）
- 5-2 名古屋市域における表層地盤のモデル化と強震動予測 : 高橋広人（名城大学）
- 5-3 東京湾岸地域の地盤震動と設計用入力地震動の事例 : 加藤研一（小堀鐸二研究所）

司会：大堀道広（福井大学）・引間和人（東京電力）

6. 総合討論 16:30～17:20 ～地震動評価の現状と今後の課題～

記録：川辺秀憲（大阪大学）

定員：200名（当日会場先着順）

参加費：会員5,000円、会員外8,000円、学生3,000円 *資料代3,000円含む

問合せ：事務局研究事業グループ 伏見 Tel.03-3456-2057